

第2学年 地理歴史科(世界史B)学習指導案

指導日時：平成28年10月27日(木)

指導学級：第2学年5組(男18名女24名)

指導者：宮城県石巻西高等学校 教諭 阿部 隆悦

1. 単元名 第3章「ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成」 ②「アメリカ独立革命」

2. 単元の目標

市民革命の影響，諸国間の戦争と国際関係，近代国家の成立，19世紀における諸民族国家の成立などに着目させ，近代国家の形成過程を理解させる

3. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
欧州・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成に対する関心を高め，意欲的に追求し，考えようとしている。	欧州・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成について考察し，判断している	欧州・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成に関する資料を活用するとともに，考察した過程や結果を適切に表現できる。	欧州・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成の過程を理解し，その知識が定着している。

4. 指導に当たって

(1) 指導計画 「革命の時代の到来」計9時間

1 「産業革命」・・・・・・・・・・2時間

2 「アメリカ独立革命」・・・・・・・・2時間(本時2/2)

3 「フランス革命とナポレオン」・・5時間

(2) 生徒の実態

本校では2学年で文系／理系に別れるのだが，2年5組は「文系」であり，地歴の選択では「日本史B」「地理B」選択者の混合クラスである。次年度「世界史B」を選択する生徒も多く，授業に対するモチベーションは高く，意欲的である。世界史の考査の平均点も高い。

しかし，本校全体での課題であるが，論理的に物事を考察し，判断してその内容を表現することが弱い。一つの課題は「考察する力」であり，二つ目の課題は「表現する力」である。授業ではこの2点の克服を目指したい。

また，世の中全体での傾向かもしれないが，ものごとに対する見方が非常にステレオタイプであり，平面的・一方的である。他者の視点から「歴史」や「社会」を考えさせることが課題と考える。

(3) 指導について

市民社会の成立過程を構造的・多面的に理解させるために，言語活動やグループワークを導入する。この際に重要となるのは，歴史はフィクションではないので，当時の政治・経済・人々のメンタリティなどをきちんとレクチャーした上で，物事を考えさせることだと考える。言語活動に関してもある程度方向性をもたせていきたい。

その上で，一方的に教員が教え込むのではなく，生徒が疑問をもち，「問い」という形で気づきをもたせて生徒全体で共有させることによってより深い理解を得られるように指導していきたい。

5. 志教育の視点

「生徒が将来，職業人や社会人として自立する上で必要な能力や態度を育てる」ことが志教育の目標であり，地歴科としてこの目標を実現するには，多様な観点からものごとを考える姿勢や態度を育てることだと考える。一つの歴史的事象も角度を変えて考えれば大きく見え方が異なることを是非理解させたい。また，「主体的に学ぶ意欲と目標を持って努力する姿勢」を育てるためにも，教科・科目の「学びのたのしさ」を指導できればと考える。

6. 夢をはぐくみ志に高める手立て

- ①多角的な視点でものごとを観察し、考察することができることによって、社会の構造的な理解が進み、社会の中での自分の果たす役割について考えることができるようになる。
- ②近代の諸市民革命を学習することによって、その過程で確立した「人権」や「憲法」の重要性を理解し、今後の社会生活に生かすことができる。

7. 本時の指導

(1) 題材名 「アメリカ独立革命」

(2) 本時のねらい

「植民地市民階層」「植民地地主階層」「イギリス」「フランス」「ネイティブアメリカン」「オランダ」の立場から当時の状況を理解させ、13植民地成立からアメリカ合衆国が成立する過程を考察させる(グループワーク・言語活動)。特にアメリカ植民地市民がなぜ、「独立」という選択肢を選んだのか、その背景について考えさせる。

また、「アメリカ独立」がなぜ「独立」のみならず「革命」と呼ばれるのか、啓蒙思想の概略を引きながら説明し、その後の「フランス革命」について想起させる。

(3) 本時の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
北米東岸へのイギリス人移住、13植民地成立から独立戦争、合衆国成立に対する関心をもち、その上で課題意識を高め、多様な学習方法を通して、意欲的に参加しようとする。	「植民地市民」「イギリス」など各グループでの立場で北米植民地の独立過程について考察し、どのような行動を取ったかを他とメンバーとコミュニケーションを取りながら考察し判断することができる。	教科書や資料集、提供した資料などを有効に活用して情報を引き出すことができる。また、多角的視点から考察し判断した結果を的確に表現することができる。振り返りシートにきちんとまとめる事ができる。	フレンチアンドインディアン戦争終了後のイギリスの植民地政策の変化とその背景について正しい知識を得て理解できる。また、植民地が独立戦争から合衆国成立までの過程を理解し、知識を定着させる。

(4) 学習指導上の工夫

- ①グループワーク用にそれぞれの立場を表したボードを準備し、グループの代表に読ませる
- ②授業開始時に振り返りシートを配布し、この時間で学んだことをまとめさせる

(5) 準備物

- ①教科書(「要説 世界史」(世界史A) 山川出版社)
- ②図説(「ニューステージ世界史詳覧」 浜島書店)
- ③自作プリント No.45
- ④ふりかえりシート
- ⑤グループワーク用ボード
- ⑥音源「Yankee Doodle」

(6) 本時の展開

段階	学習活動と主な発問	形態	指導上の留意点	評価基準
導入 (10分)	<p>①ふりかえりシート配布</p> <p>②グループ作成 (6グループ,6~7人) イギリス ネイティブアメリカン 植民地市民・植民地地主 フランス・オランダ&ロシア *以降の授業はこのまま進める ボードを配布する</p> <p>③前時の復習 1.オランダの北米進出 2.フランスの北米進出 3.イギリスの北米進出 4.植民地戦争の結果 *フレンチアンドインディアン 戦争終了後に着目させる</p>	<p>一斉</p> <p>グループ</p> <p>個別 グループ</p>	<p>①授業の最後に記入して回収する</p> <p>②コミュニケーションの難しい生徒 のグループ分けに配慮する</p> <p>③これ以降の授業についてはそれぞれの グループの立場で考えさせる</p> <p>③質問についてはそれぞれのグループ に質問していく(分からない場合は 相談可とする)</p>	<p>把握して答え られるか否か, 周囲とのコミ ュニケーショ ンはとれてい るかどうか [関心・意欲]</p>
展開 (35分)	<p>①各チームの代表にそれぞれの 事情を説明させる (ボードの内容を読む) 1.フランス 2.オランダ 3.ネイティブアメリカン 4.植民地市民 5.植民地地主 6.イギリス の順番</p> <p>②英本国の厳しい重商主義 政策への転換 ・フランスの脅威の消滅 →イギリスチームに質問 「これからの政策をどうする」 ・これまでの植民地戦争の経費 ・広大な新領土の運営費</p> <p>③一方的な課税強化(印紙法) →植民地市民にチームに質問 「同意のない課税は有効？」 →パトリックヘンリの 「代表無くして課税無し」を意 味を説明する</p>	<p>個別 グループ</p> <p>一斉</p> <p>グループ</p> <p>一斉</p> <p>グループ</p>	<p>①説明内容は端的に行い,理解しやす くする。また,自分たちの立場を 忘れないように指導する。</p> <p>②フレンチアンドインディアン戦争終 了によりフランスの脅威が去り,財 政危機打開のため,植民地に一方的 な課税が行われた経緯を説明する *各法についてあまり深入りしないよ うに説明を進める。 イギリスチームへの質問も短時間で 行う。</p> <p>③プリントNo.38[イギリス革命]の「権 利の請願」の内容を確認する。 *チームでの相談及び助っ人の先生へ の質問を可とする。短時間で行う。 *英本国がアメリカの反応に対して 鈍感であったことを加える。 →植民地人の権利を保障する考え方 はなかった。</p>	<p>端的に説明す ることができ るかどうか。 [技能・表現]</p> <p>課税強化の背 景について考 察することが できるか。 [思考・判断]</p> <p>課税強化に対 する植民地人 の対応を理解 できるか。 [知識・理解]</p>

展開	<p>④「茶法」及び「ボストン茶会事件」について解説する。 *写真集の絵を見せる →ネイティブアメリカンチームに質問「ボストン茶会事件の格好についてどのように考えるか？」</p> <p>⑤本国の強硬な対応と植民地人の対応について解説する。</p> <p>⑥開戦の経緯と戦争の展開について説明する。 →植民地地主チームに質問「英本国と結びつきの強いあなた方は戦いますか」 ・トマス・ペインの「コモン・センス」により独立意識が高揚したことを説明する。 ・独立宣言の基本的な精神について説明する。 ・フランス、オランダチームに質問「イギリスが困っていますがどのように感じますか」 ・ネイティブアメリカンに質問「この戦争をどう思いますか」 ・フランスの参戦と武装中立同盟によって植民地が勝利したことを解説する。</p> <p>⑦合衆国憲法の成立と合衆国の制度の特徴について説明する。 ・「共和政」が採用されたことを強調し、合衆国の独立が単なる「独立」ではなく「革命」であったことを説明する。 ・合衆国の組織の特徴としては「三権分立」「大統領制」程度にとどめる。 ・ネイティブアメリカンチームに質問「あなた方の権利は守られたと思いますか」</p>	<p>一斉</p> <p>グループ</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p> <p>グループ</p> <p>一斉</p> <p>グループ</p> <p>グループ</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p> <p>グループ</p>	<p>④当時の植民地人も生活習慣はイギリスとほぼ同様であり、紅茶を好んでおり、オランダからの安い密売茶を飲んでいた。 *ネイティブアメリカンチームへの質問は簡単にする。思った感想で可とする。</p> <p>⑤ボストン港封鎖、軍隊駐留は強硬な政策だったことに注意させる。</p> <p>⑥開戦の経緯と経過については簡単に説明する。戦争が始まってもお、愛国派と忠誠派に別れていたことを理解させる。 *可能なら「Yankee Doodle」を聞く *「コモン・センス」の説明では、大きな影響を与えているロックの社会契約論について触れる。 *写真集の絵を見せる。 *米独立宣言の公布日が独立記念日となっていることに触れる。 *「どのように思うか」という程度にとどめる。意見が出ない時は相談させる。 *同上 *ワシントンのリーダーシップは優れていたが、欧州の大国フランスの参戦はとても大きかったこと、それを引き出したフランクリンの功績にも触れる。</p> <p>⑦「軍事的に政権委譲が行われ、支配階級が交替すること」が革命の定義であると確認する。 *アメリカの政治制度についてはあまり深入りせずに授業のまとめへと進む。</p> <p>*「どのように思うか」という程度にとどめる。意見が出ない時は相談させる。</p>	<p>茶法とボストン茶会事件の経緯について理解できるか。 [知識・理解]</p> <p>愛国派と忠誠派に別れていた理由について理解できるか。 [知識・理解]</p> <p>独立戦争におけるコモン・センスの重要性を理解できる。 [思考・判断]</p> <p>多角的な立場から独立戦争を考察することができるか。 [思考・判断]</p> <p>革命の定義を理解できるか。 [知識・理解]</p> <p>多様な視点で歴史を捉えられる。 [思考・判断]</p>
	<p>①歴史を多面的・多角的に考察することの重要性を再確認させる。</p> <p>②相談させながらまとめシートを記入させる。</p> <p>③次回の予告</p>	<p>一斉</p> <p>グループ</p>	<p>①時間があれば感想を聞く。</p> <p>②可能なら回収するが、様子を見て難しそうであれば次回に回収する。</p>	
まとめ (5分)				